

キンボールスポーツ・チャンピオンズカップ 男子 国際武道大Aが優勝

チャンピオンの部 女子はteam OBA
第15回キンボールスポーツジャパンオープン・チャンピオンズカップ(日本キンボールスポーツ連盟主催)が6日、神戸市須磨区緑台の神戸アリーナで開かれ、チャンピオンの

部男子は国際武道大A(千葉県勝浦市)、同女子は関西国際大や梅花女子大などのOBらに参加する社会人チームのteam OBA(神戸市)が優勝した。

キンボールスポーツは直径12.2センチ、重さ約1キロの大きなボールを使い、1チーム4人、3チームが同時に同じコートでプレーするカナダで考案された新スポーツ。日本には19

97年に導入された。国内のプレーヤーは約1200人。大会には全国から男女合わせて58チームが出場。予選を勝ち抜いた決勝には、男子が国際武道大A、SHUT ORUTU KOBEBE(神戸市)、滋賀県立大桃球ジョイナス!

(滋賀県彦根市)が進出。女子はteam OBAのほか国際武道大Z、梅花女子大MSA(大阪府茨木市)が勝ち進んだ。男女ともコートいっぱいに大きなボールを打ち合い、白熱した試合を繰り広げた。(3面に関連記事)



①チャンピオンの部・男子で優勝した国際武道大Aの選手たち
②巧みな技で女子の部を制したteam OBA



スポーツ・アクティビティ

「Kobe INK物語」開発のきっかけは阪神大震災から10年後。大きな痛みから震災前の落ち着きを取り戻そうと懸命だった竹内さんは、仕事の合間

に見上げた六甲の山並みに感動を覚えた。忘れていた緑の美しさに心を奪われたという。「この深みのあるグリーンをインクの色で再現したい。もう一度、

美しい神戸を取り戻し、多様な色で神戸を元気に」と大手メーカーのセラー万年筆の技術者の協力を得て、第1号の「六甲グリーン」を送り出した。

「須磨海浜ブルー」などおしゃやかな神戸に似合う特別配合の50色を販売している。竹内さんは「フォーマルな手紙や書類などは従来からある黒やブルー系ですが、親しい友人への誕生日カード、イラスト、デザイン画、絵画などに色づかいを楽しむ方が増えて注文が届きます。ネット注文の4割が海外

「です」と話す。こんなエピソードもなく、ピンク系で行ったところ、生徒のやる気を引き出した例もある。竹内さんは、赤色だと生徒は厳しく受けとめますが、ピンク系になると先生の人柄や優しさも感じられ、勉強に対する姿勢も良くなるそうです」と色彩効果を紹介。ピンク

系を注文する先生が増えていているという。◇「Kobe INK物語」は1瓶500円、各1500円(税別)。「万年筆デビュー」は国産メーカーならば1万円台で十分という。竹内さんは「何でも相談してください。大切にすれば一生使えます」と強調。問い合わせは同社本店(078・321・4500)。



「旧居留地セピア」を皮切りに「北野異人館レッド」「元町ルージュ」「湊川ライム」

「湊川ライム」

「湊川ライム」

「湊川ライム」